

【民法】

以下の問題1から問題5までの問にすべて解答しなさい。なお、解答用紙の指定された箇所に収まるように解答すること。

問題1 民法110条のいわゆる「基本代理権」について、それが要件とされる趣旨と、どのような場合にそれが認められるべきかについて、簡潔に答えなさい。

問題2 判例における民法177条の「第三者」の範囲について、簡潔に説明しなさい。

問題3 債権譲渡は、債権の同一性を維持したまま債権の帰属主体が変更することをいう。この「債権の同一性を維持する」とは、どのような趣旨か。具体例も挙げて簡潔に説明しなさい。

問題4 いわゆる「不動産賃借権の物権化」とは、どのような諸現象を指す言葉か。法律の規定や判例法理を示しつつ、簡潔に説明しなさい。

問題5 以下の事案を読み、(1)および(2)の問に答えなさい。

Aは、甲中古自動車を所有権留保特約付きでA名義のままBに割賦販売した。Bは、Aに代金を完済しないまま、甲をCに転売した。その際、Bが直ちにCに名義変更手続きをすると約束したので、Cは、代金全額をBに支払って、甲の引渡しを受けた。Cは、甲に新型のナビを取り付けた上で使用していた。

(1) CがBに名義変更するように再三要求したものの、それがなされないまま引渡後6ヵ月が過ぎたときに、Aは、代金を完済しないBとの売買契約を解除して、Cに対し、所有権に基づき甲の引渡しを求めてきた。このAの請求に対し、Cは、以下の①～③の反論を主張したい。各反論の法的根拠を明らかにした上で、その当否を簡潔に論じなさい。

- ① AB間の契約解除をAはCに主張できないとのCの反論
- ② 甲の所有権はCが原始取得しているとのCの反論

③ Cが甲に新型ナビを取り付けたことから、その費用を支払ってこない限り、甲は渡さないとのCの反論

(2) Aの引渡請求が認められたと仮定する。Cは、Bに対して代金の返還を求めたい。このCの請求の当否について、Cの請求の法的根拠を明らかにした上で、Bの反論を踏まえて論じなさい。